

コロナ禍における海外留学を取り巻く状況

令和3年12月22日（水）

1 新型コロナウイルス感染症の状況

2019年（令和元年）末から2020年（令和2年）年初にかけて発生した新型コロナウイルス感染症は世界中に拡大し、延べ2億7,000万人以上の感染者が確認され、死者は約560万人を超えている。

世界各国でワクチン接種が進んでいるほか、デルタ変異株の感染拡大が落ち着くなど、感染症の流行は最盛期よりも落ち着いてきており、徐々に貿易の正常化やビジネス出張、観光旅行の再開が進むなどの兆候が見られつつある。

しかし、欧州やロシアなど一部の国や地域では感染が再拡大しているほか、新たに南アフリカで確認されたオミクロン株が拡散するなど、今後の社会正常化に向けては依然、不透明な状況が続いている。

2 海外留学への影響

世界中に新型コロナ感染症が拡大したことにより日本からの海外留学は減少傾向となっている。

（参考）

・ 2018年度 115,146人 → 2019年度 107,346人 前年度比7,800人減、6.8%減
出所：「日本人学生留学状況調査」（日本学生支援機構）

・ 2019年 77,963人 → 2020年 18,374人 前年比59,589人減、24%減
出所：「（一社）海外留学協議会による日本人留学生調査2021」

3 国の対応

（1）外務省

外務省は、危険度の高い感染症に関し、世界保健機構（WHO）等の対応や発生国の流行状況、主要国の対応等を総合的に勘案し、世界160カ国・地域に対して感染症危険情報レベル3（渡航はやめてください）、その他の全世界の国・地域に対してレベル2（不要不急の渡航は止めてください）を発出し渡航・滞在に当たっての注意を呼びかけている。

（2）文部科学省、日本学生支援機構

文部科学省では、日本からの海外留学について、感染症危険情報レベル3の国・地域への留学は取り止め、レベル2の国・地域についても留学の延期を要請。

しかし、海外大学の学位取得を目指す留学は渡航の遅れによる修学等への影響が大きいことや、国内外において、感染症に対する対応策の蓄積やワクチン接種が進捗しつつあることなどを踏まえ、留学生の安全確保を前提に一部の留学支援を再開。

【再開した留学支援】

- ①2020年11月 大学等の学位取得を目的とする留学
- ②2021年9月 大学間交流協定等に基づく1年間（派遣期間9カ月以上）の留学

なお、上記①、②以外の留学については、まだ支援を再開していない。感染症の影響により留学できていない支援対象者には留学期間を1年間（令和4年12月31日まで）延長。